



東林山 法雲寺

〒667-1311兵庫県美方郡村岡町村岡2365
TEL：0796-98-1151 98-1161 FAX：0796-98-1168

法雲寺報

<http://www2.nkansai.ne.jp/org/houunji> Eメール：houunji@io.ocn.ne.jp

お盆を支えていたもの（私的考察として…）

梅雨が思いの外長引きましたが、そろそろお墓掃除等、お盆の準備が気に掛かる頃となりました。

お盆と言いますと最近では「ご先祖のお祭り」と言うよりは、長期休暇の一つ、帰省シーズンといった印象の方が強く定着しています。

「盆・正月くらいは・・・」普段離れて生活している一族が相集い、共に一時を過ごして互いの絆を確かめ合う事は、何を置いても大切なことです。しかし慌しさの中で親族の世話ばかりに終わってしまうのも、何か少し物足りないような気がします。何時の頃からか、お盆は「生きている人のみのお盆」となっていました。

お盆の起源を考えると、その起こりは仏教が伝えた盂蘭盆会（うらぼんえ）の仏教行事に求められますが、その行事を支え定着させた土台は、仏教が普及する以前から信じられていた、日本古来の民間信仰（太古の神道？）に求められると思います。

古来、日本人は「死」と言うことを極端に怖れ、死は不浄なことであり、穢れと感じてきました。人は亡くなるとその魂は生前の個性（性格）とはかけ離れ、非常に荒々しい性格を有する精霊（しょうりょう）となると考えていました。

また反面では、日本は農耕社会であり、生活の糧を生み出してくれる田畑は正に我々の生を繋いでくれる宝箱のような存在で、その田畑を切り開き耕し、子孫である我々に伝えてくれたのは、他でもない我々の祖先です。田畑を与えてくれた祖先の存在は昔の人々にとって正に田ノ神であり、転じて農業用水を常に供給してくれている山ノ神でもあった訳です。田ノ神・山ノ神としての祖霊は山の頂きから麓で暮らす子孫の繁栄と農業の順調を常に気に掛けてくれている、温和で包容力に富む存在であった訳です。

荒々しい魂である「精霊」と温和で豊穡をもたらしてくれる祖霊「田ノ神」、両者は全く相反する性格のものですが、共に祖先の魂が変化したものです。この「精霊」から「田ノ神」への変化を繋ぐ為

の機能がお盆にはあったと思えます。

昔の事ですから冷凍施設も在りませんから人が亡くなると、人々は急いで葬儀を済ませ、野辺の送りに出し、山麓に遺体を埋葬（土葬）します。やがて、埋葬された遺体は朽ち始め、魂は肉体から遊離し精霊となり、山麓の林の中などを漂います。

先程、説明したようにこの精霊は大変不安定な存在で、祟り易く、時に接し方を誤れば人々を死の世界に引き釣り込む程凶暴な存在と昔の人々は考えていました。その為、人々はこの精霊の浄化・安定を真剣に願い、鎮魂慰霊の儀式を真剣に取り組みました。

最初は荒々しい精霊ですが、年を重ねての鎮魂慰霊を積み重ねることにより、精霊の性格も徐々に温和な性格へと浄化され、その漂う場所も年月の経過と共に山麓の低い場所から徐々に山の高みの神の領域へと登って行き、最終的には山頂まで至り、温和で包容力に富む田ノ神の集団の中に吸収されていきます。荒々しく祟り易い精霊から、温和な祖霊神への変身を成し遂げる訳です。（この間が33年）

その鎮魂慰霊が習慣化したものがお盆の行事の下地となったと考えられます。（お正月は温和となった祖霊神（田ノ神）をお招きして一族の繁栄を共に願う儀式が起源と考えられます。）

江戸時代以降は檀家制度の定着もあって、仏教の浸透が加速され、今まで民間信仰として行われていた祖先祭祀も仏式化が進み、その一環として盂蘭盆会と、精霊の供養が重なり現在の形となってきたように思えます。

お盆の間の流れは、大概、13日の夕刻に山麓のお墓まで帰っている精霊をお墓参りでお迎えし、各家庭で親族一同と共にお供えやご供養を行い、また地域では盆踊り（里帰りをされた精霊の代わりに踊る、又は共に踊る慰霊行事）などを行います。お盆の間、親族や地域で供養・慰撫された精霊は16日の仏送り（又は送り火）でまた、本来の所に

（2 ページに続く）

(1 ページから続く)

戻って頂く、と言うのが山間地では一般的でしょうか？

さて、時代は平成の現代です。今更、「祟り易い精霊」等と言っても余り意味もありませんし、「ご先祖様々」と昔のような家中心の社会でも有りませんが、単なる帰省と息抜き、及び接待だけで明け暮れてしまうお盆も考えるところが多いように思えます。

確かに比べるものが無いほど物質的には豊になった現在ですが、世相を見ると不安な事ばかり・・・忙しさにまみれて、何かどこかに大切なものを置き忘れてきたのではないのでしょうか？

棚経の日程について

本年度の棚経（檀家回り）の日程に付きましてご連絡いたします。8月10日に寺で行事があるため若干日程を変更いたしております。詳細は下図をご覧ください。

期日	地域	期日	地域
8月7日 (木)	板仕野 宿	8月11日 (月)	野々上 川上
8月8日 (金)	用野 鹿田	8月12日 (火)	新町 西本町
8月9日 (土)	但馬一円	8月13日 (水)	東中東上 本町
8月10日 (日)	寺行事	8月14日 (木)	本町 殿町
		8月15日 (金)	施餓鬼

- ※ 日程が変更になる板仕野・宿・用野・鹿田・但馬の皆様にはご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご了解頂きますようお願い申し上げます。
- ※ 8月15日に永代供養のお宅、地元の初盆のお宅にご参列願ひ施餓鬼を行いたいと思ひます。
- ※ 上記日程で不都合がある場合はご連絡下さい。

参拝者用手洗い工事着手

檀信徒会総会資料でもご報告いたしました「参拝者用手洗い増設工事」の件で御座います。既存の奥手洗い（男1女1）に洋式手洗い2基増設（現・物置部分を改造）の予定で工事を計画致しました。今まで大人数参拝時にご不便をお掛けいたしておりましたが、これで大分解消できると思っております。また、併せまして物置の増設、老朽部分の補強の工事なども併せて計画いたしております。



手洗いと物置予定地

工事経費300万円弱に付きましては、借入金にて対応し、寺院の運営を通じて返済を考えております。今後ともご理解ご協力どうかよろしくお願ひします。

H14年特別寄進のご報告（訂正）

H15年檀信徒会総会資料にて御報告させて頂きました「特別寄進のご報告」ですが表中に誤りが御座いましたので上記に訂正し改めて皆様にご報告させて頂きます。池田様にはご芳志に対し大変失礼を致しました。この場をお借りまして深くお詫び申し上げます。

編集後記

3号を発行したのが、昨年11月。4号の発行まで約8ヶ月の月日掛かっています。今後は、手洗い工事の状況、秋の大講には息子の御度も予定いたしました。皆様には状況を随時知って頂くようお願いいたします。今後はあまり間をおかず発行を続けてまいります。便利な世の中になりました。ご意見・ご要望等が御座いますらメール等でお待ちしております。